

# はじめに

学 長 糸魚川 直祐

本学の教職員は、全員が力を合わせ、「立学の精神」のもとに「教育目標」を達成し、教育の質を一層向上させるため、さまざまな取り組みを行っています。そのなかで、教員は、とりわけ授業の改善に努めております。

良い授業をすることは、とても難しい課題です。私は大学の教員になってから半世紀以上たちますが、いままって満足な授業ができているとはいいきれません。これは私の能力不足によりますが、改善の努力が足りないことも事実です。授業にもっと工夫を加えなければと思いつつ、それを補う前に、次の授業がやってきて、不満足な授業を繰り返しております。

授業改善に役立てるため、授業の取り組みの事例を冊子にまとめ、それを活用してはどうかというアイデアは、大河原量学院長よりいただきました。このアイデアを教育改革推進委員会に諮り、全員の賛同を得て、FD推進委員会に作成をお願いしました。FD推進委員会 北村薫子委員長、三浦秀松副委員長はじめ委員の方々の長時間に及ぶ献身的な努力と寄稿下さった先生方のお力添えにより、この冊子が出来上がりました。上梓にあたり、皆様方に衷心より厚く御礼を申し上げます。

この冊子が授業改善に役立ち、教育の質の向上に資するかは、教員がこれをいかに活用するかによります。授業は、教員と学生との双方向の関わり合いにより成り立ちます。教員は、学生が授業内容を理解しているか、自分で考え、自発的に勉学に取り組んでいるか、積極的に質問し、意見を述べているかなどをとらえ、それをもとに授業を展開しなければなりません。このような教員と学生とのアクティブな関わり合いが授業には不可欠です。

授業中、質問し、意見を述べるのが苦手な学生がいます。教員は、そのような学生に授業への積極的な関わりを促すとともに、質問や意見がなくとも、レポートなどさまざまな方法により、学生の理解度を把握し、授業を進めなければなりません。また、教員が学生に宿題を課し、それをもとに授業を行うことにより、継続的に幅をもった双方向授業が可能になります。

全ての授業は、双方向でなければなりません。双方向授業は、言うは易く、行うに難しい課題です。しかし、教えることのプロであるわたしたち教員は、たとえ難しくとも研鑽を重ね、プロとしての責任を果たさなければなりません。自戒をこめて申し述べる次第です。

本冊子は、これをいかに活用するかがポイントです。多くの先生のご寄稿により、ページ数が増え分厚くなり、持ち運びには少し重くなりましたが、いつもお手元に置き、随時どのページでも自由に開いてお読みいただき、教職員同士語り合い、討議を重ね、また学生にも読ませるなどして、授業の改善にご活用下さい。この冊子が、皆様方の愛読書のひとつになり、双方向授業の展開と学生の主体的な学びを引き出すのに役立つことを切望します。